

うす氷みきははなれてうく朝をこゑなめらかに
うくひすのなく
春風にひふささゆらくかこの中に鶯かひぬわか
き妹
何一つ思はぬ胸は安けて落つはきなど拾ひて
は居る
故里の竹やふ蔭の紅椿おつる夕のものゝはかな
き

廣間 ひで

ふるさとは物皆こひし夏のきて虫喰ふといふ溪
うくひすもよし
静なるやふかけゆけは赤き花一つこほれて鶯の
なく
衣ぬひし去年なつかしきまる窓に紅梅のかけう
くひすのなく
菅野 けい
渡場に舟よふ人のかけもなくみゆきたまれり枯
芦の上に
一夜きて旅ねうれしき乳母か家と枕に近くうく
ひすのなく



春雨に傘してかへる柳原ぬれてきこゆる鶯のこ
る
杉山 はな
門にいて、泣く子すかして鶯のなく音をまねぬ
夕月夜かな
永春の神のみくにに美しき御許人召すゆけよう
くひす

雑報

◎本會記事

去月十七日午後一時より第二十二回文科學術
談話會を附屬高等女學校体操場に於て開く、當
日校長中川謙二郎先生、教授下村、下田(次郎)
荻野、西村の諸先生、喜多見、下田(たづ子)、
波佐谷の生徒監諸先生及早川、田中(なほ)の兩
氏來臨せらる、講演順序は左の如し

- 一、瓊子内親王 附名和神社 文四 上村 しづか
- 二、埃及につきて 東京高等師範學校教授 山崎直方先生
- 三、樺太の沿革 文四 中川 絹重
- 全 大池 ふさよ
- 以上

尙當日は樺太に關する圖書寫真等を數多塊集し
て會場に陳列し來會者の觀覽に供したり、今そ
の主なる圖書の目錄を左に記すべし

- 樺太に關する圖書目錄
- 1 蝦夷志 (享保三三) 新井白石
 - 2 福山秘府 (安政九) 松前福山府臣源廣長
 - 3 北行日記 (寛政全二四四)
 - 4 蝦夷草紙 (前編後編) 最上徳内
 - 5 續蝦夷草紙 (寛政全二四六) 近藤守重
 - 6 邊要分界圖考 (文化元二四五) 近藤守重
 - 7 北島志 (安政全二五一) 水戸彰考館 (亮)
 - 8 北蝦夷圖說 (安政全二五二) 常陸間宮倫宗口述
 - 9 北虜志 (安政全二五一) 彰考館編 (亮)
 - 10 窮北日誌 (明治全二五三) 岡本文平 (阿波の人)
 - 11 最上徳内の書簡寫集
 - 12 蝦夷國全圖 (天明全二四五) 林子 平
 - 13 蝦夷島細見圖書 (文化全二四五) 大田東重滿
 - 14 北蝦夷地分間の圖 (間宮林藏)
 - 15 北裔備考 (京兆山田聯忠草稿)
 - 16 松前紀行 (堀田攝津守紀正敦著述)
 - 17 蝦夷國風俗人情の沙汰 (本田三郎右衛門利明)
 - 18 樺太及北沿海洲 (東亞同文館(二圓半錢))

- 19 近藤正齋全集 (市島謙吉(非賣品))
- 20 樺太要覽 (樺太廳)
- 21 樺太植物調査概報 (樺太民政署)
- 22 樺太鑛産調査概報 (全)
- 23 南部樺太森林調査書 (全)
- 24 樺太地誌 (東京地學協會)
- 25 樺太境界劃定事蹟 (陸軍省)
- 26 樺太現況一覽圖 (樺太廳)

◎學術談話會規程

明治四十五年一月二十九日本校會議室に於て各科學術談話會部長及幹事等、校長中川謙二郎先生より既に本校職員によりて定められたる左の規程を諮問せられ皆賛同の意なりしを以て向後愈々該條規によりて學術談話會は經營せらるゝ事となりぬ、則左の如し。

學術談話會規程

第一條 本會は本校生徒が平素學修する事項を互に談話し、智徳の増進に資するを以て目的とす。

第二條 本會を文科、理科、技藝科の三科に分つ。

第三條 本會は本校生徒を以て組織す、生徒はその學修せる分科に従ひて第二條の各科に入るものとす。

第四條 本校卒業生は本會の賛助員たることを得。

第五條 本會は本校教官を請うて客員となす。

第六條 本會に會長を置く會長には校長を推戴す。

第七條 本會の各部に部長一名を置く、部長は客員中に就き會長之を囑託す。

第八條 本會各部に幹事を置く、幹事は各部所屬會員より各級若干名を互選す。

第九條 部長は談話の事項方法等を監督指導するものとす。

第十條 幹事は部長の指揮を受けて各部の事務を取扱ふものとす。

第十一條 部長及幹事の任期は各一ヶ年とす。

第十二條 本會各部に於て行へる談話研究等は

印刷して配布することあるべし。

第十三條 本會各部の内規は會長の承認を経て會員之を定む。

附則 第十四條、第六臨時教員養成所生徒及卒業生は本校生徒及卒業生に准ず。

◎地理教授上注意す可き事項

地理の最終授業の時右の事項につき西村先生より種々御話ありました皆様の御参考までに概要を書きます。

- 1 大地方の地理教授に使用す可き教室掛圖の選擇
- 2 教科書中の圖表説明圖は屢々本文より有効なるものなり其使用の時期及方法
- 3 地圖の縮尺は各地方によりて異なるものなり教授上常に生徒をして注意せしむること
- 4 地方の外形水系水系の大体系統をして永く生徒の腦底に印象せしむる方法
- 5 常に大地圖を用ひ時に部分圖を用ふること
- 6 人文地理に於て諸地方の人文發達の狀況が地

文地理に起因する事を忘る可からず

特に上級生徒には此關係を明に教授すべし

7 既に學習せる地方又は次に學はんとする地方に關する時事問題に留意し又生徒をして留意せしむべし

8 常に變化する事實又は餘り必要ならざる事實は詳説するの要なし基本となる事實は極めて明に説述し各方面より解説を試る可し

9 生徒をして時に地圖を描かしむ可し詳密なることを要せず之れ土地の外形水系水系の系統

都邑の位置交通の系統を記憶せしむるの良法たり

10 生徒をして方向距離面積の觀念を確實ならしむ可し之基本智識なればなり

11 地勢及氣候と産業との關係は明瞭に説明す可し

12 地勢と交通との關係も亦同じ

13 大都邑と小都邑との關係亦然り

14 赴任地理を第一に吞込むこと

15 旅行案内曆の活用を怠らぬこと